**Ⅰ　調査の概要**

**１　調査の目的**

　　　この調査は、学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的とする。

**２　調査の周期・期日**

　　　周期　　昭和２３年度から毎年実施（昭和２３年度から昭和３４年度までは、統計の名称を「学校衛生統計」として実施）。

　　　期日　　学校保健安全法による健康診断の結果に基づき、平成２７年４月１日から６月３０日までの間に実施。

**３　調査の対象**

満５歳から１７歳までの幼児、児童及び生徒（以下「児童等」という。）の一部（抽出調査）。

なお、調査実施学校（園）数、調査対象者数及び抽出率は、次のとおりである。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 区 分 | 学校（園）総数 | 児童等  総数 | 調査実施学校（園）数 | 発育状態調査 | | 健康状態調査 | |
| 調査対象者（人） | 抽出率（％） | 調査対象者（人） | 抽出率（％） |
| 幼稚園 | 107 | 2,345 | 29 | 861 | 36.7 | 995 | 42.4 |
| 小学校 | 302 | 62,719 | 58 | 5,246 | 8.4 | 20,485 | 32.7 |
| 中学校 | 166 | 36,719 | 39 | 4,394 | 12.0 | 14,391 | 39.2 |
| 高等学校 | 80 | 37,409 | 28 | 2,475 | 6.6 | 17,416 | 46.6 |
| 計 | 655 | 139,192 | 154 | 12,976 | 9.3 | 53,287 | 38.3 |

注1:発育状態調査は、調査実施校に在籍する児童等のうちから年齢別男女別に抽出された者を対象とし、

健康状態調査は、調査実施校の在学者全員を対象としている。

注2:学校（園）総数及び児童等総数は平成２７年度学校基本調査（青森県分）による。

注3:幼稚園の児童等総数は「５歳児」のみの人数である。

**４　調査事項**

（１）児童等の発育状態（身長、体重及び座高）

（２）児童等の健康状態（栄養状態、脊柱・胸郭の疾病・異常の有無、視力、聴力、眼の疾病・異常の有無、耳鼻咽頭疾患・皮膚疾患の有無、歯及び口腔の疾病・異常の有無、結核の有無及び結核に関する検診の結果、心臓の疾病・異常の有無、尿、寄生虫卵の有無、その他の疾病・異常の有無）

≪利用上の注意≫

(１)　 この速報は、文部科学省がまとめた「平成２７年度学校保健統計調査速報」の一部（青森県分）を要約したものであり、後日、「平成２７年度学校保健統計調査報告書」として文部科学省が公表する数値が確定値となる。

(２)　 年齢は､平成２７年４月１日現在の満年齢である。

(３)　 統計表の中の記号

　　「 － 」　該当者がいない場合

　 「 … 」 調査対象とならなかった場合

　「0.00」 計数が単位未満の場合

(４)　 合計の数値は､四捨五入を行っているため各項目の合計と一致しない場合がある。

**Ⅱ　調査結果の概要**

**１　発育状態**

**(１)　身　長**

男子、女子ともに全年齢で全国平均を上回っており、その差が最も大きいのは、男子では１０歳及び１３歳の１．８ｃｍ、女子では１０歳及び１１歳の１．９ｃｍとなっている。

1. 男子は１０歳、１１歳、女子は６歳、７歳、１１歳、１７歳で全国第１位となっている。
2. 最大の年間発育量は、男子は１２歳から１３歳時の７．７ｃｍ、女子は９歳から１０歳時の７．４ｃｍとなっている。

**表１　身長の平均値**



**グラフ１　身長の平均値**

**〈男〉**

(cm)

0.0

★

★

　　★：全国1位

**〈女〉**

(cm)

0.0

★

★

★

★

　　★：全国1位

**(２)　体　重**

男子、女子とも全年齢で全国平均を上回っており、その差が最も大きいのは、男子では

　　　　１１歳の２．８ｋｇ、女子では１１歳の２．４ｋｇとなっている。

1. 男子は６歳及び１０歳から１４歳、女子は６歳から１１歳及び１４歳で全国第１位となっている。
2. 最大の年間発育量は、男子は１１歳から１２歳時の６．３ｋｇ、女子は１０歳から１１歳時の５．４ｋｇとなっている。

**表２　体重の平均値**



**グラフ２　体重の平均値**

**〈男〉**

(kg)

0.0

★

★

★

★

★

★

　　★：全国1位

**〈女〉**

(kg)

0.0

★

★

★

★

★

★

★

　　★：全国1位

**(３)　座　高**

男子、女子とも全年齢で全国平均を上回っており、その差が最も大きいのは、男子では１０歳及び１２歳の１．０ｃｍ、女子では１１歳の１．１ｃｍとなっている。

1. 男子の１４歳及び１６歳、女子の１４歳の数値は、県のこれまでの最高値となっている。
2. 男子は６歳、１０歳、女子は６歳、７歳、１１歳、１６歳で全国第１位となっている。
3. 最大の年間発育量は、男子は１１歳から１２歳時の４．１ｃｍ、女子は１０歳から１１歳時の３．６ｃｍとなっている。

**表３　座高の平均値**



**(４)　３０年前（親の世代）との比較**

親の世代である３０年前の昭和６０年度と比較すると、身長・体重・座高のいずれも、ほとんどの年齢で親世代を上回っている。

1. 身　長

　　　 男子では、５歳以外すべての年齢で親の世代より高く、世代間の差は１２歳が最も大きく、２．７ｃｍ上回っている。

　　　　女子では、１４歳以外すべての年齢で親の世代より高く、世代間の差は１１歳が最も大きく、２．０ｃｍ上回っている。

1. 体　重

　男子では、５歳以外すべての年齢で親の世代より重く、世代間の差は１７歳が最も大きく、２．８ｋｇ上回っている。

　女子は、５歳、１５歳、１６歳以外すべての年齢で親の世代より重く、世代間の差は１１歳が最も大きく、１．９ｋｇ上回っている。

1. 座　高

　男子では、５歳、６歳、７歳、９歳以外すべての年齢で親の世代より高く、世代間の差は１２歳が最も大きく、１．７ｃｍ上回っている。

　女子では、６歳以外すべての年齢で親の世代より高く、世代間の差は１１歳及び１７歳が最も大きく、１．４ｃｍ上回っている。

**表４　 ３０年前の身長・体重・座高の平均値との比較**



**グラフ３　３０年前（親の世代）の身長・体重の平均値との比較**

**〈身長・男〉**

0.0

(cm)

**〈体重・男〉**

0.0

(kg)

**〈身長・女〉**

0.0

(kg)

(cm)

**〈体重・女〉**

0.0

**(５)　１７歳の年間発育量と世代間比較**

　１７歳（平成９年度生まれ）について、５歳時（平成１５年度）から１２年間の発育量をみると、男子は身長が５９．９ｃｍ、体重が４５．１ｋｇ、女子は身長が４８．３ｃｍ、体重が３４．７ｋｇとなっている。

　①　年間発育量が最も大きい時期

　　　 男子は、身長・体重ともに１１歳から１２歳の間（身長７．５ｃｍ、体重６．２ｋｇ）が年間発育量の最大値となっている。女子は、身長は８歳から９歳の間（７．２ｃｍ）、体重は８歳から９歳及び１０歳から１１歳の間（４．７ｋｇ）が年間発育量の最大値となっている。

　②　親の世代（昭和４２年度生まれ）との比較

　　　 　年間発育量が最も大きい時期について、親の世代である３０年前の昭和４２年度生まれと比較すると、男女ともに、身長、体重のいずれも、平成９年度生まれの方が早期に最大値を迎えている。ただし女子の体重については、１０歳から１１歳の間に共通して最大値を迎えている。

**表５　 １７歳の１２年間の発育量（親の世代との比較）**

－　平成９年度生まれ（平成２７年４月時点１７歳）と昭和４２年度生まれ（昭和６０年４月時点１７歳）の比較　－



**グラフ４　１７歳の年間発育量と世代間比較**

**〈身長・男〉**

(歳)

(cm)

**〈体重・男〉**

(歳)

(kg)

**〈身長・女〉**

(kg)

(歳)

(cm)

**〈体重・女〉**

(歳)

**（６）肥満傾向児・痩身傾向児の出現率**

肥満傾向児及び痩身傾向児の本県と全国における出現率は次のとおりで、肥満傾向児の出現率が、男子、女子とも全年齢で全国平均を上回っている。

1. 肥満傾向児

　　 　 男子では、１７歳の出現率が１７．４０％で最も高く、全国値との差も１７歳が最も大きく、７．１８ポイント上回っている。

女子では、１５歳の出現率が１２．１８％で最も高く、全国値との差では７歳が最も大きく、５．４１ポイント上回っている。

男子は５歳、１７歳、女子は７歳で全国第１位となっている。

1. 痩身傾向児

　　 　男子では、１６歳の出現率が３．１７％で最も高く、全国値との差では１２歳が最も大きく、１．３４ポイント下回っている。

女子では、１２歳の出現率が５．２８％で最も高く、全国値との差では１４歳が最も大きく、１．１１ポイント下回っている。

**表６　肥満傾向児・痩身傾向児の出現率**



**グラフ５　肥満傾向児の出現率**

**〈男〉**

(%)

★

★

　　★：全国1位

**〈女〉**

(%)

★

　　★：全国1位

**２　健康状態**

**（１）疾病・異常の被患率等の状況**

　 　疾病・異常の被患率をみると、幼稚園と小学校の学校区分において、「むし歯（う歯）」が最も高く、中学校と高等学校の学校区分においては、「裸眼視力１．０未満の者」が最も高い。

**表７　疾病・異常の被患率等**



(注)１．「口腔咽喉頭疾患・異常」とは、アデノイド、扁桃肥大、咽頭炎、急性又は慢性的症状の喉頭炎、扁桃炎、音声言語異常の疾患・

　　　　異常等である。

　　２．「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、唾石等のある者である。

　　３．「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。

　　４．「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。

　　５．「その他の疾病・異常」とは、いずれの調査項目にも該当しない疾病・異常である。

**（２）主な疾病・異常等の推移**

疾病・異常等の主なものの推移は、表８のとおりとなっている。

**表８　主な疾病・異常等の推移**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  | | |  | |  | |  | |  | |  | |  | |  | | （単位：％） | |
| 未  満  の  者  区 分 | | | 裸  眼  視  力  1.0 | | 耳 疾 患 | | 鼻・副鼻腔 疾　　　患 | | 口腔咽喉頭 疾患・異常 | | む し 歯 （う歯） | | アトピー性 皮　膚　炎 | | 心電図異常 | | 蛋白検出 の　　　者 | | ぜ ん 息 |
| 幼 稚 園 | | 青森県　平成17年度 | 14.7 | | 2.8 | | 7.1 | | 3.1 | | 62.9 | |  | | … | | 0.4 | | 0.3 |
| 青森県　平成23年度 | 3.0 | | 0.7 | | 1.6 | | 0.9 | | 55.0 | | 2.5 | | … | | X | | 0.7 |
| 青森県　平成24年度 | X | | 3.7 | | 6.6 | | 0.2 | | 49.2 | | 1.1 | | … | | - | | 0.5 |
| 青森県　平成25年度 | X | | 6.8 | | X | | 0.3 | | 49.0 | | X | | … | | 1.2 | | 1.4 |
| 青森県　平成26年度 | X | | 3.7 | | X | | 1.4 | | 43.5 | | 1.0 | | … | | 1.0 | | 0.8 |
| **青森県　平成27年度** | **12.7** | | **2.5** | | **2.2** | | **1.8** | | **46.3** | | **2.0** | | **…** | | **-** | | **1.2** |
| 全　国　平成27年度 | 26.8 | | 2.2 | | 3.6 | | 1.3 | | 36.2 | | 2.5 | | … | | 0.8 | | 2.1 |
| 小 学 校 | | 青森県　平成17年度 | 38.6 | | 6.1 | | 14.9 | | 1.6 | | 77.7 | |  | | 1.5 | | 0.3 | | 1.2 |
| 青森県　平成23年度 | 39.8 | | 5.2 | | 14.3 | | 0.7 | | 69.5 | | 1.8 | | 1.7 | | 0.8 | | 2.6 |
| 青森県　平成24年度 | 40.1 | | 5.5 | | 16.0 | | 0.9 | | 66.9 | | 1.1 | | 1.5 | | 0.5 | | 1.5 |
| 青森県　平成25年度 | 42.4 | | 5.8 | | 18.2 | | 1.5 | | 65.2 | | 1.1 | | 2.3 | | 0.4 | | 1.5 |
| 青森県　平成26年度 | 43.2 | | 5.6 | | 16.3 | | 1.2 | | 64.2 | | 1.1 | | 1.8 | | 0.6 | | 1.7 |
| **青森県　平成27年度** | **44.5** | | **7.4** | | **18.4** | | **1.1** | | **60.8** | | **1.3** | | **2.5** | | **0.8** | | **1.7** |
| 全　国　平成27年度 | 31.0 | | 5.5 | | 11.9 | | 1.2 | | 50.8 | | 3.5 | | 2.4 | | 0.8 | | 4.0 |
| 中 学 校 | | 青森県　平成17年度 | 58.9 | | 1.6 | | 10.7 | | 0.9 | | 67.0 | |  | | 1.6 | | 1.0 | | 0.9 |
| 青森県　平成23年度 | 62.7 | | 3.3 | | 13.6 | | 0.5 | | 55.2 | | 0.9 | | 2.6 | | 1.8 | | 1.2 |
| 青森県　平成24年度 | 65.1 | | 2.4 | | 15.2 | | 0.4 | | 55.8 | | 1.3 | | 2.6 | | 1.8 | | 0.8 |
| 青森県　平成25年度 | 62.3 | | 4.9 | | 14.8 | | 1.5 | | 54.5 | | 1.7 | | 2.4 | | 2.7 | | 1.5 |
| 青森県　平成26年度 | 64.1 | | 3.2 | | 20.4 | | 0.4 | | 50.9 | | 0.9 | | 2.9 | | 4.0 | | 1.4 |
| **青森県　平成27年度** | **65.0** | | **3.3** | | **13.8** | | **0.3** | | **49.7** | | **1.1** | | **2.5** | | **2.1** | | **1.1** |
| 全　国　平成27年度 | 54.1 | | 3.6 | | 10.6 | | 0.6 | | 40.5 | | 2.7 | | 3.2 | | 2.9 | | 3.0 |
| 高 等 学 校 | | 青森県　平成17年度 | 68.2 | | 0.7 | | 9.5 | | 0.7 | | 77.6 | |  | | 2.6 | | 1.2 | | 0.5 |
| 青森県　平成23年度 | X | | 1.2 | | 13.3 | | 0.6 | | 69.0 | | 0.9 | | 2.1 | | 2.5 | | 0.7 |
| 青森県　平成24年度 | X | | 5.0 | | 11.0 | | 0.4 | | 67.8 | | 0.7 | | 1.4 | | 2.7 | | 0.9 |
| 青森県　平成25年度 | 65.4 | | 3.7 | | 9.9 | | 0.5 | | 62.0 | | 0.9 | | 2.0 | | 2.3 | | 0.8 |
| 青森県　平成26年度 | 71.7 | | 2.9 | | 14.3 | | 0.2 | | 59.3 | | 0.8 | | 1.3 | | 2.7 | | 0.8 |
| **青森県　平成27年度** | **71.1** | | **2.1** | | **5.7** | | **0.5** | | **56.4** | | **1.2** | | **1.1** | | **2.0** | | **1.0** |
| 全　国　平成27年度 | 63.8 | | 2.0 | | 7.3 | | 0.4 | | 52.5 | | 2.1 | | 3.3 | | 3.0 | | 1.9 |
|  | |  |  | |  | |  | |  | |  | |  | |  | |  | |  |
| 注： | | １．小数点以下第２位を四捨五入している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|  | | ２．心電図異常については、６歳、１２歳、１５歳のみ実施している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|  | | ３．アトピー性皮膚炎については、平成１８年度から調査項目に追加されたため、１７年度の数値は存在しない。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|  | | ４．「X」は疾病・異常被患率等の標準誤差が５以上，受検者数が100人（５歳は50人）未満，回答校が１校以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|  | | 又は疾病・異常被患率が100.0%のため統計数値を公表しない。 | | | | | | | | | | |  | |  | |  | |  |

　　ア. 裸眼視力１．０未満の者

　　　①　裸眼視力１．０未満の者は、幼稚園を除いて、全国平均を上回っている。

　　　　・幼 稚 園　１２．７％（全国平均２６．８％）

　　　　・小 学 校　４４．５％（全国平均３１．０％）

　　　　・中 学 校　６５．０％（全国平均５４．１％）

　　　　・高等学校　７１．１％（全国平均６３．８％）

　　　②　１０年前と比較すると、小学校、中学校、高等学校において、その割合は増加している。

**表９　裸眼視力1.0未満の者の推移**



**グラフ６　裸眼視力1.0未満の者の推移**

（年度）

(%)

　注：幼稚園の平成２４、２５、２６年度及び高等学校の平成２３、２４年度については統計数値が公表されていない。

　　イ. むし歯（う歯）

　　　①　むし歯の被患率（治療済みを含む）は、全学校区分で全国平均を上回っている。

　　　　・幼 稚 園　４６．３％（全国平均３６．２％）

　　　　・小 学 校　６０．８％（全国平均５０．８％）

　　　　・中 学 校　４９．７％（全国平均４０．５％）

　　　　・高等学校　５６．４％（全国平均５２．５％）

　　　②　１０年前と比較すると、全学校区分において、その割合は減少している。

**表１０　むし歯（う歯）の被患率の推移**



**グラフ７　むし歯（う歯）の被患率の推移**

(%)

（年度）

0.0

　　ウ. ぜん息

　　　①　ぜん息の被患率は、全学校区分で全国平均を下回っている。

　　　　・幼 稚 園　１．２％（全国平均２．１％）

　　　　・小 学 校　１．７％（全国平均４．０％）

　　　　・中 学 校　１．１％（全国平均３．０％）

　　　　・高等学校　１．０％（全国平均１．９％）

　　　②　１０年前と比較すると、全学校区分において、その割合は増加している。

**表１１　ぜん息の被患率の推移**



**グラフ８　ぜん息の被患率の推移**

(%)

（年度）

　　エ. アトピー性皮膚炎

　　　①　アトピー性皮膚炎の被患率は、全学校区分で全国平均を下回っている。

　　　　・幼 稚 園　２．０％（全国平均２．５％）

　　　　・小 学 校　１．３％（全国平均３．５％）

　　　　・中 学 校　１．１％（全国平均２．７％）

　　　　・高等学校　１．２％（全国平均２．１％）

　　　②　９年前と比較すると、幼稚園及び高等学校において、その割合は増加している。

　　　　※アトピー性皮膚炎については、平成１８年度から調査項目に追加された。

**表１２　アトピー性皮膚炎の被患率の推移**



**グラフ９　アトピー性皮膚炎の被患率の推移**

(%)

（年度）

　 注：幼稚園の平成２５年度については統計数値が公表されていない。